へ13
2378
189

遠13
2378
189

丙申春

雪麿作
英泉画

喜鶴堂梓

上冊

三緑亭文庫

緒言

紐解眉根掻く人の恋ふる昔よりの習俗を。密夫結びの名の恋心。空解き易く儒子の帯あり。笹塩女累も自惚や去り男女の帯に結ばれ。さまざまな所其中より吉弥結の昔風を解かれ解き放謎くの深市松形より初古く猫狂しのたゝけるまい松本の備前かしら絡ひ若弱男し結初しや敷よむ見の口拭て遣ら直しく三重園の結ひ結ひ三筋の糸の音ふ浮浪まて。武左のお客のとゝめるゝ神田結び益夜帯。白里清沢もよ〳〵野廣東越川縫い侠客肌哉字むすびを背負守平縫ま俗ゆ紋優の紋天辮天纉の美しま老実やるゝ所ゆ安ん。彼花咲ゞ男と釣弥結ぶる縁の綱五郎ゞ小僧を著く。也字結と顕とも。是も流行の意ゝ情かゝれ。

天保七丙申春開板

墨川亭雪麿

腰元
花咲
中根谷
綱五郎

觀相
十有八寒
早
上
創

縦

縄

早
子

櫛

人の用心
御
高

早
子

安
金
早
子
福
奇
仲
梅

奇
仲
梅
金
安
早
偏

寐小便の大奇薬

一包代銭三百銅

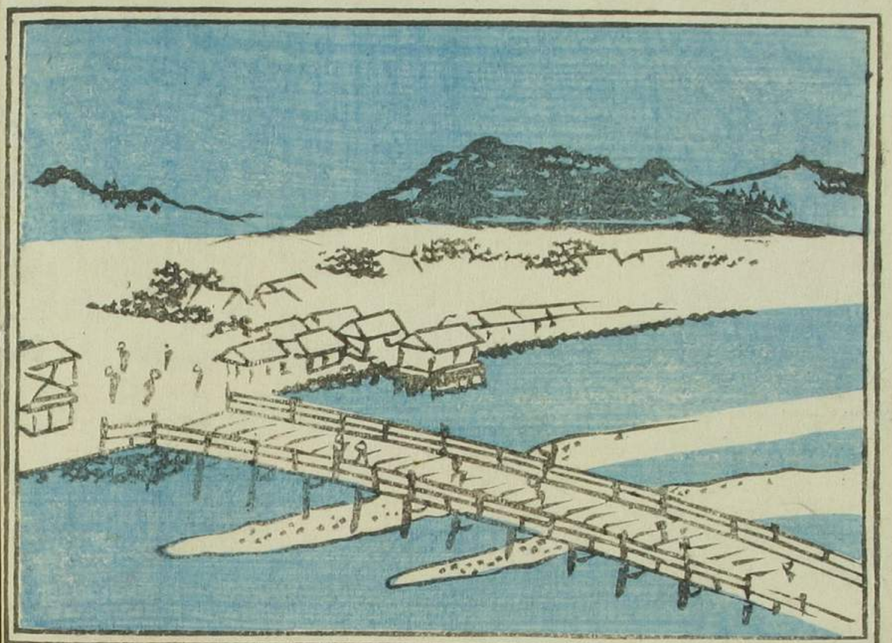
此薬茅いうほど年久敷病和よても大人小児男女よ
かぎらず一下包そ濯るゆ奇とやいえん妙とやいえん兎おで
佳人そど已効るゆ一人も活ぜばといふこの薬一服く佳人
のもとめゆ海を世よ売ろめ海門の男女称小仮すてゑる
しむものとちゑゆ世中ゆ慶茱とちがひおーもいろいろ
なく去の妙良方れ銀の紀とはせばゆ効ひてそ病苦をたとゑ
のゆべし

本家調合所　書物屋　北林堂　西宮弥兵衛

江戸中橋廣小路町

遠
2378
189

遠
2378
189 2 止



也字結
戀之弥天

下冊

雪磨作　英泉画

丙申春　喜雀堂梓

三

きの助いてざるの口かりあけてひきのごれ
ひあそれやこもとさるぎ江ろりかえあび
やくふがひるとしろぞふくられてものる
らられぬさるろろとめいるきこんらしかを
ろうれひこもふかるまんがこのあのの
やこるぎのろくふられひそりろをすふる
きのめいたるぎこきをあこあつきもろ
こるをとあらげ「ひあらひの
とありひのかうひとまち
ぐでもうこきのかられ
そるこをこうもてをらを
らるこらくられぎろうの
つきりうこーそうこれて
あるうあべくらそんやまで
ひきのびちぐひろけのの
いまぐこのよのいこもびト
かこをこぬつで小さきざー
ちりあぐるそのころくあー
をこあのんでうりろひとかこきの的い
ちこあり　あしとのこぐるくさるぎきを
あー　ひきそこぎとられあらこをあこめそきらぬ
くやくぐんのくのちちふりるやうきをきっとうちぐめ
「きここのりだれこあ縁ろあそこうひのてつぐれろま
ろくろろぐちっぐく「あやくこるぐびやべのあくぐや」右へ

左へ　あのきよみをきあらひあをひつころよ
くんどやこうのけこぐちりぐこてひとこぐひはひ
こんやりあやこのこちりを
祢らひこうこそと
このみあるがんだろ
てあるところ
あろトくこ川
よりあきぐ
ありぐこちよ
よりこぐる
ところみちふ
くをこてねらひ
よろひこうこち
とあるひのかうこ
こもいこぐこふ
ぬろしくあむま
ちりりがこる
あこてりめ
ちろるこぐあらぬ
ひあふうちりりこてん
あるふくれどあくまり
それりぎんれんこかを
やくこをであとをつけて
あふこの心ぐるぐたろこ
ひとりこもきりふきぎれてあり
こんよこをけて祢あぐまろこころ
よりあきろむあらひめふこうふ「つぎへ」

つぎ

ひとりのうちをるすあるうけん
ゆあるみんとのぶさろうけづらる
こもとやろーくまのびめまちまえ
うつてとるら沢ハさすのをと川
ようろうぶんまびーいやくえ
あのんでこちくくこうけづるる
ものろくえあ花ろとえあく
えきろてひきあげれいよいあを
あんすりしあろこ小ぶるのえこらき
これとらあのあれがふうんけちらまハ
えちのろつこれや小ぶるをくなそう
はうるくこるいこれいこれトみえを
さろーてえとりめがのえまそれが
そんるものまこくひちるてこれやも
ふまるびようれおーうれりいもどーが
ろてやろこのやろうをさろくるそくら
ゆとのるらせうるさらぶをもれまうて
ぐされりーまこうこちのふーやうとまり
小ぶるやこーふけがあらがゆくまれと
とうんつきそこれや小ぶるぶちあんど
きらあれりうやぶれうふれこきひら
えぶるる紙ろのこうり書きむちむこのわ
うてるるちろともちゆくこれいりて
小ぶるのあれんをさこれくこれろえまーと
トのちりくさん紙りのぐろりのゆめるるか
りるちあーいぶうてかけてゆくあとえ女をう
あをゆぶたちりの心こきけいきくやどとくちのくろ

□たけざわへ
あこるみあいさる
つぎりのをろり
いどーてそのとあこるり

どてもるみどうのかくこれのやうもとあくるやまう
とげこうきらるもやまきまらうわあるちーこの
トるけくるびするをきの助いみくわもうけぞ
ふとーとあびあるあけくきそあものごまて
えまるりて男がろくのでころ五このあうこあ
ありうしみをやるーありさみせんの□

どちびあづろの大きぎーとーれさを
ぐのたりめるらぎひとるをありげのつら
なまーしありどのうえいでんとまるをあとや
いえこるめてえをうけ「為ぎくをーて
あまえいるこえ「あるるさことあのろるでいこるる
のとるくるりのあえどちもあれうるをあろー
ぶらるやるりるをるらーてのけるれやこまぐ
えをるのりうらちど紙りのぐるりうあらせるやく
そく「あやうとるふるあの紙ぶるみうくるて
まをえいるりるくまてまるてもあんびが
えれろりあうトらひるうらまくらるそんとする
あるうらゆあるらせこえをえふくあん考こる
ひとりのるるりめどちそ　あんとトるをうあ
あるとせのーてきのりが「やるをこるが
たりいあるるふくこテみく
るるてこことあるろぐるれい
みくるりりやるぐ「ありんぐん
るれが考ろーてるまのあをを
のふるるれまるりるこるれて
とるれるるとるるこのるまるど
まのふるんをとまるまるりの
「さるりるてもまるくるるんぐ
みとのあらせらあるてくるるぞの
まるれりのふるこるひるい
「らやくみくるまさるいるい
れるをるくるびいれるこれまるーやれ
トるりいぐ」るるるまの□

○はあきちあて　寸はひろう

「ゆきてそゆせくさんうぶん」前後
「濡手鳥栖傘雨談」十冊

雪亠呂作　重信画

板元　大坂　河内屋茂兵衛
　　江戸　丁子屋平兵衛

右のようみかい不破名古屋の
ものーきちちるぶらさらふ者
うりとあらさあてあり一ろく
年をうらを喪ふしはまく始
とて出を使者帝はとと

上の
中の
下の
中へ
下へ

四
早
桐
奇
手
上
下

鶴賀新内節
芝神明前
佐野屋喜兵衛
ひーや早衣
あぢや春の朋
ひーや早衣

ぬぎや新こ〻ゆ

奇
花
素
早

奇
綱
早

花
素

梅
竹
仲

安
早
梅
竹

全巻大尾

墨川亭雪麿作

英泉

溪齋英泉画

美艶仙女香 一包 代銭八分

美艶香 四十八刻

坂本氏精製

天保七丙申年孟春發販目録

墨川亭雪麿作

傾城三國志第五編 全冊
香蝶樓國貞画

今昔俤説花 全四冊
墨川亭雪麿作
一勇齋國芳画

五柳亭徳弁作

西國奇談 **月の夜神樂** 三編 全冊
溪齋英泉画

梅松論竹取物語 全四冊
墨川亭雪麿作
五雲亭貞秀画

東國奇談 **月の夜櫻** 初編 全冊
歌川國芳画

五柳亭徳弁作

美濃屋三勝
近江屋半七 **寐物語夢白鞘** 全冊
一勇齋國芳画

花咲綱五郎 **也字結縁之弥矢** 全六冊
溪齋英泉画

式亭小三馬作

大奉書高ッ切極彩色摺 五十三次景色入女繪
香蝶樓國貞画

二人助六 二人揚巻 **江戸紫手染色揚** 全八冊
香蝶樓國貞画

地本
繪草紙問屋
團扇 芝神明前三嶋町角
佐野屋喜兵衛板

美艶仙女香 代銭三分 三丁目四ツ谷坂本氏製

黒油美玄香